

## 議 事 録

### 第4回 岐阜市幼児教育推進プラン検討委員会

- 1 日 時 令和2年1月14日（水）13時30分～15時30分
- 2 場 所 みんなの森 ぎふメディアコスモス（つながるスタジオ）
- 3 出席者 加納(誠)委員長、安藤委員、春日委員、加納(顯)委員、真田委員、白木委員、  
杉山委員、鈴木委員、中島委員、脇淵委員（※大塚委員、西川委員ご欠席）
- 4 傍 聴 1名（※公開で開催）
- 5 次 第
  - (1) 開 会
  - (2) 事務局説明
  - (3) 委員協議
  - (4) 閉 会
- 6 議 事  
(13時30分開会)

**○加納（誠）委員長** 只今より、第4回の岐阜市幼児教育推進プラン検討委員会を開会いたします。改めまして、新年明けましておめでとうございます。今年度を通じて取り組んできたことを形にして、ここでの議論が広がっていくことを期待しております。

今日は、事務局の方で素晴らしい会場を選んでいただきまして、透明感のあるところで、時には人に見られながら、建設的な意見を交わしていきたいと思っております。

本日は委員10名が出席されております。皆様、よろしく申し上げます。それでは、次第に沿って進めてまいります。事務局、お願いします。

**○事務局** 皆さん、こんにちは。幼児教育課長の久保田です。いつも大変お世話になっております。いよいよ最後の幼児教育推進プラン検討委員会となりました。今まで、委員の皆様には幼児教育実践をもとに熱心で建設的なご意見を賜りまして、本当にありがとうございます。

さて、先般お送りさせていただいた岐阜市幼児教育推進プランの答申案に沿ってご協議いただくわけですが、この12月から1月にかけてパブリックコメント手続きを実施したと

ころ、大変多くのご意見をいただきまして、市民の皆様の関心の高さを感じた次第です。後で担当から説明をさせていただきます。

本日ですが、子ども未来部とも連携してやっておりますので、川瀬子ども未来部次長兼子ども政策課長が出席しております。どうぞよろしくお願ひいたします。

では、担当からご説明申し上げます。よろしくお願ひします。

**○事務局** （資料について説明）

**○加納（誠）委員長** ありがとうございます。それでは、議論を積極的にしていきたいと思ひます。今回が最後の検討委員会ということで、幼児教育推進プランの答申内容の確認という意味合ひですが、新たな検討事項も出てきておりますので、それも含めて議論が尽くせるように、調整したいと思っております。

論点が幾つかありまして、これまでの検討委員会の振り返りについては、確認で済んだと思ひますので、早速こちらのカラー刷りのプランの答申案に移りたいと思ひます。前回の委員会で大変多くの時間をかけた11ページの「遊びの中の学び」の表現方法などについて、どうでしょうか。

**○加納（顯）委員** この絵について、植物があつて、下から順番に「体の動きや体力」と「認知能力」と「非認知能力」とあります。ただ、順番から言うと「非認知能力」の方が根っこに近いと思ひますが、いかがでしょうか。

**○加納（誠）委員長** 私も、そこは少し感じたところでありまして、特に順番みたいなものを意識したわけじゃないですよね。

**○事務局** そうですね。

**○加納（誠）委員長** その場合は、「非認知能力」は今の「体の動きや体力」のところに来て、「体の動きや体力」が一番上の左側の葉っぱでよろしいですか。

**○脇淵委員** 僕は「体の動きや体力」の方が先だと思ひますが。

○春日委員 順番的には、根っこに近い部分から「非認知能力」「体の動きや体力」で、最後が「認知能力」という感じですね。

○加納（誠）委員長 そうですね。皆さん、よろしいでしょうか。

○中島委員 このイラストを見ると、子どもを取り巻いているのがみんな大人ですので、できたら子ども同士のイラストが入っていると良いと思います。遊びは友達同士の中で生まれることが多いですし、この間も議論に出ていましたが、けんかなどもありながら育っていくわけですから、可能でしたら子どものイラストも入れてください。

○加納（誠）委員長 地上部分ですかね。

○中島委員 これ、パパと子どもも地上ですよ。地中じゃないですよ。

○真田委員 私も迷いました。何か地面の下にいるように一瞬見えてしまいます。

○加納（誠）委員長 そうじゃないと僕は思ったのですが。

○真田委員 それは意図していることですか。別のことを表して2つなのか、一体となつて何かを表しているものなのかが迷いました。

○加納（誠）委員長 多分、根っこの部分の遊びの中の学びが、非認知能力や認知能力の成長を例えた植物のイラストにつながっているのではないのでしょうか。遊びの中の学びの一例として、お父さんと子どもがどんぐりを集めたというイラストで表現していると読み取ったのですが。

○脇淵委員 深いよね。

○加納（誠）委員長 ですから、中島委員のご意見については、地上に子どものイラストを加えるのがよいと思います。そのほか、イラストや文言を含めましていかがでしょう。

○**真田委員** このイラストの上の部分に、キャプションとして遊びを通して育まれるものを入れて、一例のところにも、遊びの一例など説明を加えるとよいと思います。

○**加納（誠）委員長** その方が伝わりますよね。遊びを通して育まれる一例でよろしいですか。

○**脇淵委員** 遊びの中の学びの一例ですよね。市のウェブサイトで事例を紹介していますから、その事例の1つということですね。

○**真田委員** 非認知能力については、4ページの下段に説明がありますので、イラストの非認知能力とあるところに（P4）と入れておくと良いと思います。

○**加納（誠）委員長** 11ページのイラストに表記していけばよろしいですか。

○**真田委員** そうですね。

○**加納（誠）委員長** 皆さん、11ページのイラストに限らず、どこからでも構いませんので、いかがでしょうか。

○**春日委員** 別のところでもよいですか。

○**加納（誠）委員長** はい。

○**春日委員** 5ページのVUCAの部分ですが、世界地図があって、今の配置だと、不安定さがヨーロッパ、不確かさがアジア、複雑さがアメリカでと見えてしまうと思ひまして。それと、こんなに大きい地図が要るかなと。

○**事務局** 丸の囲みを中央に並べて、横並びにしたほうがよさそうですね。

○春日委員 そうして、その下のSDGsの図をもう少し大きくして見やすくするといいのかなと思います。それからもう一点、6ページの下段のグラフに濃い色と薄い色がありますよね。例えば、3歳児のオレンジ色は2種類ありますよね。これは何でしたか。

○事務局 これは下の注釈にありますが、各年齢のパーセントが表示された部分を指していて、保育を利用されているお子さんの割合ですが、分かりにくいかもしれません。

○春日委員 保育を利用されている人とそうじゃない人を分けているわけですね。何か説明があったほうがよいと思います。

○加納（誠）委員長 では、5ページの地図をもう少し小さくして、このVUCAの丸囲みを並列に並べて、SDGsと割合が同じぐらいになるような構成にしましょう。

○脇淵委員 下段の図が少し見えにくいですからね。

○加納（誠）委員長 このSDGsの図も大きくしましょうか。6ページのグラフは、パーセントに注釈を加えるというところでよろしいですね。そのほかはどうですか。

○加納（顯）委員 7ページの上段の棒グラフについて、0歳から5歳まであって、3歳は幼稚園児が結構多いのですが、満3歳は、この中に含まれていますか。

○脇淵委員 2歳児でしょう。2歳児に入っていないですか。

○加納（誠）委員長 どこに含まれていますか。

○事務局 幼稚園の満3歳クラスについては、学校基本調査が5月1日時点の集計ですから、3歳児の数字には出てこないかと。

○加納（誠）委員長 含まれるのは4月生まれの子だけですね。ここには入っていないと思いますが、仕方ないですね。

○事務局 幼稚園以外の施設は4月1日時点の情報です。

○加納（誠）委員長 その他はいかがでしょうか。

○鈴木委員 先ほどお話に出ていた非認知能力について、4ページの下段に非認知能力の説明があって分かりやすいと思いますが、4ページの説明文の最後「非認知能力を育むこともまた」との記述の非認知能力の文字と、下段の説明が繋がると分かりやすいと思いました。例えば太文字にしたり下線を引いたりして強調すると、非認知能力という言葉聞いたことがない人の理解にも繋がると思います。

○加納（誠）委員長 文章の中身はこのままでよいですか。強調して分かりやすいようにということですね。

○事務局 パブリックコメントでも、こちらの非認知能力の上段の説明文で「忍耐力や協調性、計画性といった非認知能力」とありますが、下段では「自己肯定感や社会性、忍耐力などの目に見えにくい能力」となっておりまして、ここの記載を揃えた方がよいのではないかというご意見をいただきました。

本日、非認知能力の事例として特に掲げたい事項などをご意見いただければ、例えば自己肯定感が重要だということであれば、上の文章も「自己肯定感や協調性や」といった形で更新したいと考えております。

○春日委員 社会性の中にも色々ありますよね。あとは忍耐力や、私としては今の時代はコミュニケーション能力が非認知能力の中では一般的に分かりやすいのかなと思いますし、あとは意欲という言葉が非認知能力の中で代表されると思いますね。

4ページですが、これは誤解を生みやすいと思うのですが、「質の高い教育を受けたグループ」と「受けなかったグループ」とあります。ジェームズ・J・ヘックマン氏の研究結果が出たときに、そのことがすごく強調されたわけですが、アメリカ合衆国と日本の事情は違います。この研究は、スラム街と呼ばれるような社会と隔離された地域に入っ  
行われたものですから、このパーセンテージだけが前面に出てくると、幼児教育にはもっ

とお金を使わなきゃいけないとか、習い事をしなきゃいけないとなってしまうと怖いですね。日本の平均的な幼児教育のレベルは高い水準にあると思いますので、ヘックマン氏の研究が日本にどこまで当てはまるかは少し疑問があるわけです。幼児教育が大事ということは分かりますが、誤解されてしまわないか心配です。

**○安藤委員** 質の高いというところの意味ですよ。

**○春日委員** そうです。世界の様々な国と比べて、僕は日本の幼児教育はレベルが高いと思っています。だから全てが、ここで言う「質の高い教育」に当てはまると思っています。

**○脇淵委員** 子どもの自発性の高い教育、主体性の問題ですよ。親が主体で教育を選ぶのではなく、子どもの主体でという視点の問題だと思います。

ヘックマン氏の研究自体は1962年からですからね。随分前の5年間という短い時期に行われたわけです。しかし、そこでヘックマン氏は非認知能力としての子どもの主体性に着目して研究したわけですから、そのころから非認知能力への視点を持っていたのは興味深いことです。逆に言えば、日本ではそういったことをやらなくても育つ地域があったのだと思います。非認知能力を育てるような地域教育があつて、兄弟も多かったし、みんな育ちました。今は、それが崩れてきたから問題だというわけでしょう。

だから、教育の質と言われたときに、今の大人が考えがちな認知能力を育てる、高めるような教育が出てきてしまって、今、春日委員がおっしゃったように、誤解を生む可能性があります。そう考えると、非認知能力の重要性をもっと強調した方がよいと考えます。

**○鈴木委員** これを私の母親に見せてどう思うかと聞いたのですが、質の高い教育の質って何だろうと。「質の高い、えっ、何、早期教育ということ。えっ、早期教育じゃないよね、非認知能力と書いてあるからね。」と言うので、ヘックマン氏は、アメリカ合衆国の低所得者層の世帯を対象に調査した結果だと説明をしました。ヘックマン氏の研究結果を知らない人のほうが私は多いと思うのですが、その人たちが見て分かるような質の高いことの中身を書かないと、先ほどご指摘があつたように、塾に通うとか、早く何かをさせることが重要だと受けとめる人の方が多いと思いますので、この点は私も気になりました。

○**真田委員** イラストが鉛筆を持って何かを書いている様子になっていますが、遊びの場面などに変えたほうがいいのかもかもしれませんね。

それから、幼児期の教育の重要性は確かなことですから、その研究の一つとして紹介する流れにして、例えば、イギリスのEPPE (Effective Preschool and Primary Education) などの研究を並列して紹介する方法もあるかもしれません。あるいは、説明文の中でこれが全てではないということを少し入れるとよいのかなと思いました。

○**加納（顯）委員** このヘックマン氏の調査では、幼児教育の中に家庭教育も含まれていましたよね。家庭教育も含んだ幼児教育として位置づけられていたと思います。

○**脇淵委員** そうですね。支援する人が家庭訪問をしていますよね。子どもを育てる家庭や地域がなかった状況で、そこへ行って幼児教育や家庭教育を充実させたわけです。将来、学校へはほとんど行けないような子どもを毎日幼稚園に通わせて、朝早く起きるなどして生活リズムをつくることからきちんとやっていったわけです。

○**春日委員** そう考えると、質の高い教育という言葉をどのように見せるかですね。家庭教育を含む幼児教育プログラムを提供したわけですから、家庭も一体になるとこれほど効果があるのかという点を伝えることができると思います。

○**事務局** 質の高い教育プログラムとの記載ですが、プログラムの中身について、この下の黄色の囲みの中の下段に書いてありますので、プログラムから吹き出しをつけるなどして、中身を目立つように表記してはどうかと考えています。

○**加納（誠）委員長** そのほか、4ページに関していかがでしょうか。

○**脇淵委員** 今の日本の社会状況から考えて、質の高い教育と言ったときに、非認知能力という言葉が出てくるかと言ったら出てこないのではないのでしょうか。ですからここで、あえて非認知能力を高める教育プログラムと書いたほうがはっきりするのではないかと思います。例えば有名なマシュマロテストとか、他にも真田委員がおっしゃったようにたくさんあるのではないのでしょうか。それらは、いわゆる認知能力を高めるのではなく、非認

知能力を高める教育プログラムばかりです。だから、質の高さとは、人間性を高めるような教育が主体になっていて、認知能力は後からしっかりついてくるわけです。

**○加納（誠）委員長** ここは扉のページとして重要なので、意識して構成したいという思いがあります。皆さんの意見をお聴きして感じたのは、市民の皆さんにお伝えしたいのは幼児教育がもつ学びの重要性です。幼児教育や家庭教育において育成するのは非認知能力だとのメッセージで、その一例としてヘックマン氏の調査研究を伝えるのはどうでしょうか。ですから、この緑の黒板の中に、それを示すエビデンスとしてヘックマン氏の調査研究を表記したらどうかと考えています。質の高い教育という言葉から誤解を生まないような表現をすれば、ここで出す価値があると思います。

**○真田委員** 先ほどの遊びの中の学びのイラストにつながるように、非認知能力を高めるためには子どもの豊かな遊びが大事ですから、11ページを見てくださーいといった流れができるとういですね。

**○中島委員** 今、皆さんのご説明を聞いて私もいろいろと腑に落ちるところがありました。それを踏まえると、黄色の部分の説明書きですが、「家庭訪問を行い、家庭の子育てを支援するものでした」と書いてあるのですが、日本人が子育てを支援と言われると、見ていてくれるとか、何かしてくれるという捉え方になってしまうので、「家庭教育を支援する」としないと、先生が来て子どもに何か指導してくれるとか、見てくれるといった理解に繋がってしまわないかと、今お話を聞きながら気になってしまいました。

それと、私たちはこのプランで非認知能力という言葉を中心にしながら検討してきました。先ほど言うてくださったように、最初の上の文に非認知能力という言葉が出てきているのに太字になっていませんし、その単語が離れています。突然ぽんと下に出てくるので、非認知能力という言葉、なぜこの下にわざわざ書いているかが分かるように、ちゃんと流れをつくったほうがよいと改めて思いました。

**○杉山委員** 感覚的に感じるのですが、「今を見つめて」のページ数が多く「大切にしたい3つのこと」が少ないと思いました。一般の方が手にしたとき、何が説明したいのかを興味深く読むのではないかと考えたとき、1つのスライドへ重ねてしまうことにこだわ

り過ぎずに載せていってもいいのではないかと思います。冒頭のデータの理解にハードルがあるより、その先で、少しでも何か読み手が感じ取れるようなことができると更によいのではないかと思います。

**○春日委員** 冒頭の題名は、幼児期の重要性ではいけないですかね。学びと言うと、どうしても学習面というイメージを一般の方は持ちやすいと思います。後で「遊びの中の学び」と使っているのですが、ここはあえて幼児期の重要性という題名でいかがでしょうか。これは、幼児期が大事だというメッセージの一つとして、過ごし方によってこんなに変わるのだという意味を込めての題名としてどうでしょうか。

**○加納（誠）委員長** 題名から学びという言葉は抜くということですね。いきなり学びと来ると誤解される可能性がありますし、私は、そういう場合は「学びと育ち」という表現をしていますが、ここでは長くなってしまいかと思うと、学びを取っても我々の伝えたいことは伝わるのかなと思います。いかがでしょうか。

**○真田委員** この答申案を手にしたときにカラフルで親しみやすく、保護者の方にも読みやすい冊子になっていると思いました。表紙のイラストについて、真ん中が夫婦になっていますが、幼児教育の主人公は子どもなのかなと思うと、真ん中に描かれるのは子どもがよいということを少し感じました。

あと、SDGsも、幼児教育との関連で語ったほうがいいのかということも思いました。誰もが暮らしやすい社会を実現するために、幼児教育が果たせる役割もあるのではないのでしょうか。子どもは、重要な社会の変化の担い手でもあります。子どもが、SDGsについて学んで主体的に社会に関われるような教育もこれから求められていくのかなと思ったので、単に社会環境の変化の一つとして上げるのではなく、そこを担っていくことができる子どもたちを、私たちは育てていくのだと。更に、それが絵に描いた餅にならないように、具体的な取り組みの中でも繋がっていくとよいと思いました。

あと、6ページのグラフについて、数字が幾つかあるところが分かりにくいなと思います。ここで伝えたいことは、子どもの数が減少していることと、保育の利用数は増加をしていることだと思います。年齢別で、どういう園に通っているかの内訳は次の7ページで示されているので、6ページと7ページの情報が重ならないようにするのであれば、6ペー

ジのグラフでは、子どもの数の減少傾向と、その中で保育の利用率が3歳以上はほとんど変わらない中で、低年齢が上がっていることを示すグラフにした方が、数字の意味の誤解がなく、分かりやすくなると思います。

それと、14ページ以降の3つのアプローチの部分で、幼小をつなぐの本文の最後が「幼児教育に取り組むことが求められます」となっていますが、次は「家庭教育を応援します」と、3つ目の実践研究の推進のところでは「環境整備を図ります」とあります。2つ目と3つ目は市が主語になって、一つ目は「求められます」となっているので、ここも市として何をするかを宣言する形にするなどして統一するのがよいのではないのでしょうか。以上です。

**○中島委員** 少し気になったのが、今の時代の流れからすると女性のイラストのハイヒールやパンプスが出てくる点です。働く女性のパンプス廃止運動が出ているぐらいなので、これから先を考えると、女性だからこういうのを履かせているという点が少し気になります。あと、男性全体的にですが、頭頂部が垂直でぱつんとなっている点が、色々な方面の方が見られるので、行政の刊行物として出すのにどうかなという気がします。

あと1点いいのでしょうか。9ページに、オール岐阜の幼児教育と謳っていて、みんなで子どもたちを守っていくと書いてあるのですが、上の文章に「各主体との対話を通じて、また、各主体間の連携の場づくりやコーディネートを図ることで相互のパートナーシップを育みながらオール岐阜の幼児教育を推進します」と書いてあるのですが、最後の18ページではその具体的な取り組みが見えにくいです。

**○加納（誠）委員長** 今のご提案ですが、18ページの具体的な取り組みにそのことが伝わるような表現にしたほうがよいのでしょうか。それとも、9ページを変えたほうがよいのでしょうか。

**○中島委員** 9ページの基本的な取り組み姿勢の中で謳っているのですが、具体的な取り組みの中でコーディネートや連携の場づくりという事業だと見えづらいと思いました。また、市関係部局のイラストについて、せっかくこれから造るので新しい市役所のイラストにできるなら、その方が岐阜市という感じがすると思います。

**○脇淵委員** 実践研究を推進の項目で、これはパブリックコメントのご意見にもあったようですが、私学振興補助金が載っていますね。一方で、私立の保育園や認定こども園はどのように捉えられるのでしょうか。今回の要領・指針の改訂・改正では、いずれの施設も教育施設だと謳ってあるので問題ないのですが、保育所・保育園などは私学振興補助金としてのお金は貰っていないわけです。実践研究を推進するという中では、保育所・保育園や認定こども園なども関わっているわけですから、そこに触れていただくと誤解を生まないのではないかと思います。

**○中島委員** 実践研究をしていないと思われてしまうといけませんよね。

**○脇淵委員** そこはどのような文言で出すといいかなと思います。17ページにあるのは私学振興補助金の補助実績という形ですが、実際には保育所・保育園や認定こども園も市から補助金を頂いていますから、そこら辺も支えているよとお書きいただくとよいと思います。いろんな形で助けていただいているので、それは実績として載せていただいた方が、自分の子どもが通っている園にも、きちんと市から補助があるのだということが分かるとよいと思います。

**○加納（誠）委員長** 私学振興補助金についての表現の仕方でしょうかね。

**○加納（顯）委員** 私学振興補助金については、実践研究を推進するという意味合いと違う気もしますが、私学の特色ある教育の取り組みについて補助金を支給して支援する形なわけです。私学については、基本的に教育委員会から補助金が出ているということで、保育園などについては子ども未来部ですね。そういった点が違うことは違うわけですが、岐阜市の支援と考えれば両者が含まれますね。

**○事務局** パブリックコメントでも、実践研究の推進の項目として分かりにくく伝わりにくいのご意見がありました。例えば、この記載を削除して、教育・保育施設の記載をもう少し厚みを持たせる方向があると考えています。

**○加納（誠）委員長** 誤解を生むぐらいだったら取ってしまう手はありますね。

**○加納（顯）委員** 市として、私立幼稚園の特色ある教育実践については支援しているということですから、それはそれでいいのかなと思います。

**○加納（誠）委員長** 岐阜市の支援みたいな形が一番伝わりやすいですかね。では、その方向でお願いします。そのほか、いかがでしょうか。

パブリックコメントにあった13ページの発達の多様性の文言について、この委員会で答えを出していかなきゃいけないと思います。非認知能力の説明には自己肯定感という言葉が入っているのですが、ここに加えるべきかどうかという検討も含めまして、いかがでしょうか。

**○事務局** 13ページの発達の多様性について、こちらの記載の中に自己肯定感という言葉を入れたほうがよいのではないかとのご意見がありました。前回の会議でも、13ページの2段落目の記載が重要だとなご意見がありましたので、ここに「自己肯定感を育て」といった形で入れてはどうかと考えております。

また、本日お配りした資料の一番下の「発達のおくれやアンバランスな様子」という記載は、「個人差」と置き換えてはどうかというご意見もあり判断に悩むところでありまして、皆様のご意見をお聞きできればと考えております。

**○中島委員** ここでいう個人差と私が思う個人差が少し違って、乳幼児期の子どもをおもちのお母さんたちは、生後何か月になったら、普通は、離乳食が進んでいく、歩き始める、しゃべり始めると考えて相談にいらっしゃいます。しかし、それには個人差があって、おむつが夏に外れる子もいれば、冬に外れる子もいるわけです。それは個人差だと思いますが、この発達の多様性はその個人差だけではないので、個人差としてしまうと周りの大人の気づきが大切だという点が引き出せないと思います。確かに個人差のほうが柔らかいのですが、柔らかか過ぎても伝わらないと思います。

**○春日委員** 幼児期から様々な関わり方によって二極化が始まってしまうという点をオブラートに包んだ表現なので、このままでよいと思います。保護者の方も含めて、ある意味でどきっとして、取り組んでいかなきゃいけないと感じていただけるのではないでしょ

うか。

**○安藤委員** 私もそれは思います。保育所では、小さいお子さんからお預かりしているのですが、差が出てくるのは2歳ごろからですから、私もこの表現でよいかなと思います。アンバランスな様子という記載については、何がアンバランスなのかがもう少し明確になると分かりやすいかなと思います。

**○真田委員** 私も、アンバランスについては、親が自分の子どもがアンバランスと思うかなというのは感じます。発達の遅れや他の子どもとの違いなど、他の子どもと比べてというのは、少し違いますかね。

**○中島委員** 他の子どもと比べてというのは、そういう保護者の方ばかりですから、載せない方がよいと思いますね。

**○春日委員** ここを消してもよいと思います。発達の遅れが気にかかり始めるだけでもよいのではないのでしょうか。アンバランスな様子と言われると、イメージとして、右肩が下がっているとか、容姿的なアンバランスさをイメージしやすいので消してもよいと思います。

**○中島委員** 遅れなど、としますか。

**○春日委員** そうですね。「発達の遅れなどが気にかかり始める」としても、十分に伝えられると思いますけどね。

**○白木委員** 今、その話が出たので申し上げますと、真ん中の段落の「子どもの特性に早く気がつき」となっていて、その下の段落は「教育的ニーズに気づき」となっていますので、上も「早く気づき」でよいと思いました。

**○加納（誠）委員長** 今出た意見をもとに修正するというところでよろしいでしょうか。

○中島委員 そうですね。

○加納（誠）委員長 検討事項は出し切りしましたか。大丈夫ですか。

○白木委員 すみません。9ページのイラストの話で、私もお父さんの髪形は少し気になっていたのですが、今度はお父さんではなく地域の方についてです。私どもの校区で考えますと、地域の老人会の方が保育園に行って一緒にお花の苗を植えたりされています。一方で、企業の方が幼稚園や保育園に行かれますかね。地域の方だと、この書類を持ったお兄さんよりも、表紙にある元気なおじいさんが登場された方がよいと思います。

○中島委員 そうですね。見守り隊とか、そうですもんね。

○鈴木委員 母に見てもらったという話の続きですが、「今を見つめて」の中の6ページ以降のデータ部分はそこまで目を通さなかったです。非認知能力の大切さや遊びの中の学びの重要性を強く伝えていきたいと思うのなら、岐阜市の現状などを説明するグラフよりも、それ以降の部分を膨らませた方が伝えたいことが伝わりやすいかなということを感じました。あと、遊びの中の学びのウェブサイトの事例は、具体的にどのようなものになってくるのかなというふうに思いました。

○加納（誠）委員長 そのほか、いかがでしょうか。

○真田委員 遊びの中の学びのイラストですが、体の動きや体力については次の12ページにも詳しく書いてあるので、（P12）と入れておくとういというのが1つと、15ページの下の黒板の中の記載について、ベネッセ教育総合研究所の調査結果を書いてくださっているの、ここに出典を入れていただけるとありがたいなと思います。

あと、17ページの上のグラフについて、私が第1回の会議でプレゼンテーションさせていただいたグラフを使っていたのですが、年少や年中の棒グラフはなしにして、年長だけにしたほうが、読みやすくなるかなと思いました。

○加納（誠）委員長 よろしかったですか。

**○春日委員** 一番裏の木のイラストですが、僕はすごくよいと思います。それぞれの役割として、乳児期から幼児期に5領域があって10の姿を育てていこうという流れで小学校に繋がっています。すごくよいのですが、そこに「のびのび育てぎふっ子」が入っていて、使いたいと思うのですが、ここに必要ですかね。このイラストを、シンプルで分かりやすい図として示せたらと思うのですが。

**○真田委員** この部分は、岐阜市オリジナルのイラストではありますが、元になっている要領・指針を参考に作成したと書いておいたほうがよいと思います。

**○加納（誠）委員長** 若干気になるのは、3つの資質・能力の部分で「学びに向かう力・人間性など」が真ん中だと思うのですが、順番からいうと3つ目ですよね。これを真ん中として表現するには三角形として見せられるとよいです。

そのほか、どうでしょうか。大丈夫ですか。

それでは時間が迫ってまいりましたので、ここで区切りをつけたいと思います。ひょっとしたら、今日は確認とのことでしたので時間が余ると思っていたのですが、この最後に来ても、皆さんから提案をたくさん出していただいて、なかなかまとめるのは難しいところですけども、本日のご意見を踏まえまして、委員会の答申としてまとめたいと思いますので、ご指導をよろしくお願いします。

本日が、この委員会の最終の会議となりますので、最後に委員の皆さんお一人ずつ、この会議にかかわっての思いやお考え、ご感想などをいただいて会議を閉じたいと思います。19ページに我々の名前が載っておりますので、安藤委員からよろしいでしょうか。よろしくお願いします。

**○安藤委員** どうもありがとうございました。皆さんのいろんな活発なご意見を聞いて、幼児教育を深く考える会を持たれたことについて、私自身とても勉強になることでした。いろんなご意見を聞くことで、私自身の見聞も広まりましたし、保育観が広がった気がします。そんなところを、今後は自分にも生かしていきたいですし、園の運営等にもつなげていき、お母さん方の子育ての応援、そして、子どもたちのよりよい健やかな成長、それから小学校への円滑な接続に進んでいけたらと思っております。本当にありがとうございました。

した。

**○春日委員** お疲れさまでした。私も長らく幼児教育に関わってきて、自分で研究者として研究していく上でも、幼児期は絶対に大事だと。たまたま自分で幼稚園もやっていますが、それなしにしても大事だと感じています。僕は特に運動ということを中心に人育てをやっているわけですが、認知的な検査もやってみると、やはり認知的なことと運動の関係性があるって、よく遊んでいる子どもたちの方が、もちろん体力も高いのですが、認知的な側面も同じ月齢でいっても高いのです。こういう地道な調査から得られるエビデンスを、僕は自分の役割として出していくべきだなと思いました。また今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

**○加納（顯）委員** 私は、前回欠席した理由を少しお話しさせてもらいますけど、実はフィンランドに教育視察で行っていました。幼児教育について重点を置いているということで、幼小連携の観点からいうと、日本の小学校1年生は、向こうで言うところの幼児教育の最終段階でプレスクールをやっていました。プレスクールが20人限定で、10人に1人ずつ教員がついて施設長もいます。消費税が24%で、国として教育にお金をかけているわけですが、やはり非認知能力の総本山といった教育で、現に成果を上げているわけですが、一方で、スマートフォンを持っている子どもを注意できないとか、学級崩壊が始まっているといった問題も言われていて、反動で認知能力に力を入れるといった動きもあるそうです。私は、日本の教育はその中間で、非常にバランスのとれた幼児教育として成果を上げているのではないかと自信を深めてまいりました。今日の皆さんの意見を聞いて、さらにその感を深めました。いろいろとお世話になりました、ありがとうございました。

**○加納（誠）委員長** 今日も愛知県から参りました。今日着いたときに、春日委員と、岐阜は遠いのではないかと話をしていたのですが、僕はあまりその遠さを感じず、それはなぜかなと考えてみました。今日の会議を振り返ってみると、この委員会が私にとって質の高い学びであり、お勉強ではなく遊びの要素に近かったのではないかと思います。今日もそうでしたが、皆さんのご意見を伺っていると自分自身が大変勉強になって、今後の教育や研究に生かしていきたいということを強く感じました。以上です。

**○真田委員** ありがとうございます。役割を果たせたかどうか、こういう場が初めてでしたので緊張する毎回でございましたが、先生方それぞれのお立場でのご意見、本当に私も勉強になりました。これからの研究活動に生かしていけたらと思っております。

日本は少子化が進んで、この先、子どもたちが生きる未来はどうなっていくのかは一人の親としても気になるころではありますが、一人ひとりの子どもが、その子らしく命を輝かせて生きていくことができるように、そのために幼児期の教育が果たす役割は非常に大きいと思いますので、私は、私の立場でできることをこれからも努めていきたいと思っております。これからも、いろいろなところで先生方との接点が出てくればよいなと思っておりますので、これからもご指導をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

**○白木委員** いろいろ話したいことはあるのですが、うちの孫が、私立幼稚園の年少の子どもです。冬休みが終わって、園で冬休みに一番楽しかったことを話したそうです。何を話したかと言うと、じいじと一緒に正月に長良公園で遊んだことを話したそうです。長良公園には同じような年齢の子どもたちがたくさん来ていて、もう帰ろうというまで遊んだそうです。そのことを思うと、家庭での役割として、祖父母としての役割をこれから果たしていきたいなということが一つです。それから、14ページにあります、年長児は小学校をとて楽しみにしてくれています。来週、本校の入学説明会がございますので、保護者の方が、この小学校に入学するのが楽しみだなどと思っていただけるように、しっかり準備したいなということを思いました。ぜひ、ここで教えていただいたことを本校の教育に生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

**○杉山委員** ありがとうございます。私も非常に勉強させていただきました。この会議が幼児教育推進プランを作成することに留まらず、今後、それぞれの立場からプランを見直していきながら、岐阜市の幼児教育が更に素晴らしいものになっていくといいなと思っております。自分自身、このプランの実現に向けてできることを一つ一つやっていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

**○鈴木委員** 私も、下の娘が年長ですので幼稚園の保護者として最後の年でした。今年には役員をやるつもりはなかったのですが、やることを引き受けて、このような会議に参加

させていただけるきっかけを持てたことは引き受けてよかったと思います。このような会議は初めてで、諸先生方とお話ということも初めてだったので、毎回、反省とどきどきで家に帰るとすごく落ち込んでいたのですが、でも、その分ものすごく学びがありました。学んだことを、とにかくほかの保護者に伝えたのですが、皆さん、すごく熱心に聞いてくださって、こういうものができたときもみんなが認めてくれて、これから自分自身の社会復帰や子育てを充実させていくための源になりました。本当にどうもありがとうございました。

**○中島委員** こういう会に参加させていただいて感謝ばかりです。また、いろんな意見を事務局の方が吸い上げてくださって、形にしてくださって、本当にありがとうございます。ここに来るのがいつも楽しみで、言いたいことを言わせていただけるし、それをまた加納委員長が笑顔でしっかりまとめてくださって、言いやすい雰囲気をつくってくださったので、とても楽しく、また、皆さんから学びをいただけるので、私としても得るものがすごく多い会でした。ありがとうございます。

私たちは、ゼロから2歳までの、いわゆる職場復帰するまでのお母さんたちが親として1年生、2年生と育ててほしいとの応援を一生懸命事業化してやっています。なので、皆さんそれぞれのお立場でやっていらっしゃるにはありますが、自分たちも、この幼児教育推進プランをしっかり受けとめて、自分たちの活動に根づくものとして活用させていただけたらと思っております。本当にありがとうございました。

**○脇淵委員** どうもありがとうございました。とても楽しみにして回を重ねることができたと思っています。僕は思いつきでしか生きておらず、手当たりばったりで生きていますので、この会議もそんな自分の意識をリフレッシュさせる意味でも、とてもいい集まりに出させていただいたと感謝しています。その思いつきで適当に言う言葉をしっかり受け止めて文字にさせていただいて、形にさせていただいているのはすごいと思いながら過ごさせていただいていました。

少し前にイギリスの幼児教育の学者の講演を聞いていたら、日本で見た風景について話していて、それが、イギリスではカートや車椅子に乗っているのは老人だが、日本では幼児が乗っている姿をよく見たと言うのです。自国ではもっと歩かせているという話でした。春日委員もおっしゃいましたが、僕は、丈夫な体をつくることは、ものすごく大事だなと

思います。どうぞよろしく申し上げます。どうもありがとうございました。

**○加納（誠）委員長** ありがとうございました。幼児教育推進プランは、皆様のお力添えで、なかなかいい絵が描けたのではないかと自負しております。絵に描いた餅は、今度はずいたり、こねたり、練り上げたり、時にはたたいたりして実現していかないとはいけません。ですので、本日の最終回はスタートでもあるということを、皆さんの話をお聴きしながら感じておりました。それでは、事務局のほうにお返ししたいと思います。

**○事務局** ありがとうございました。本日の会議録ですが、また岐阜市ホームページに載せさせていただきます。それから今後ですけど、答申について加納委員長に一任でまとめていただき、教育委員会定例会で説明させていただきます。それから、市長と教育委員会が協議する2月12日の総合教育会議でも議題として、3月に公表する予定です。よろしく申し上げます。皆さんの英知を拝借するばかりで大変恐縮ですが、本当にありがとうございました。では、これをもちまして幼児教育推進プラン検討委員会を閉じたいと思います。ありがとうございました。

(15時30分閉会)